

## 男性型更年期障害（LOH 症候群）とは

男性ホルモン（テストステロン）の部分欠乏による諸症状からなる症候群です。

女性特有の悩みとされていた更年期障害ですが、近年日本では男性にも更年期障害があると注目が集まっています（欧米では 1980 年代から）。

なんとなく調子が悪い・だるい・疲れやすいなど、医療機関でも加齢による症状と片付けられ周囲の理解が得られず、苦しんでいる患者様が多数存在します。男性ホルモン（テストステロン）は男性力を高める重要な役割を担っており、筋肉を増強する作用や精神活動を活発にする作用のほか、性欲、日常生活におけるバイタリティを高める作用などがあります。そのため男性ホルモン（テストステロン）の低下は男性としての身体全体の機能維持に支障をきたすだけでなく、社会的・精神的・性的側面にも影響を及ぼします。

## 男性型更年期障害（LOH 症候群）の症状

全身倦怠感・ほてり・イライラ・めまい・のぼせ・発汗・耳鳴り・冷え・動悸・呼吸困難・不眠・頭痛・頻尿・不安・性欲低下・うつ・物忘れ・勃起力低下・筋肉量の低下・ひげが薄くなるなどの体毛の変化があります。

## 男性型更年期障害（LOH 症候群）の原因

加齢にともない男性ホルモン（テストステロン）が徐々に低下することで起こる場合と、重度のストレスや環境の変化などで、男性ホルモン（テストステロン）が急激に減少することによって起こります。

## 男性型更年期障害（LOH 症候群）の病態

男性ホルモン（テストステロン）の低下により、筋肉量の低下、骨密度の低下、メタボリック症候群、高血圧、高脂血症、糖尿病、認知力低下、貧血、頻尿、性機能障害などの症状が起こります。

## 男性型更年期障害（LOH 症候群）の鑑別疾患

うつ病・認知症・一過性ストレス障害・プロラクチン産生腫瘍など、男性型更年期障害と鑑別しなければならぬ疾患があります。

## 男性型更年期障害（LOH 症候群）治療の流れ

問診、診察	問診票及び AMS スコア・大うつ病エピソード、老研式スコア活動能力指標で現在の状況把握とうつ病を鑑別。
検査	血液検査、腹部エコー（前立腺チェック）
診断、治療	男性ホルモン筋肉注射（1 回/2 週間）＋ 内服薬
フォローアップ	4 週後・3 カ月後・6 カ月後・12 カ月後 血液検査、腹部エコー（前立腺チェック）

男性ホルモン注射の副作用に、前立腺癌や乳癌悪化・前立腺肥大・多血症・SAS・肝毒性などがあります。